伊豆日日新聞

平成30年（2018年）12月8日　（土曜日）

三島市長選　■課題を探る（下）■

新市庁舎の建設構想

老朽化、サービス低下懸念

三島市庁舎は、1960（昭和35）年に建設された築58年。耐震補強されているものの老朽化は否めず、機能分散化による市民サービス低下の観点からも今後の対応が迫られている。市は来年度から新庁舎建設の基本構想策定に着手する考えだ。

老朽化が進む三島市役所

市庁舎は現在、本館と隣接する西館、大社町別館、中央町別館の4館に分かれている。築58年なのは本館で鉄筋コンクリート造り4階建て。76（同51）年に建設された西館と合わせ、延べ床面積7100平方㍍で2006年に耐震補強した。伊豆地区の市では下田市（1957年に本館建設）に次いで古い。人口2万2千人規模の下田市は20年度末完成を目指して新庁舎建設を決めた。概算事業費は上限30億円程度。

手狭による圧迫感、少ない駐車スペース、1カ所で全て用事を済ませるワンストップサービスの困難な現状など利用者の不満は募る。市内に住む70代の男性は「用があっても曜日によっては満車状態」とこぼす。

高齢化、国際化が進む今後、国籍・年齢・障害の有無などに関係なく多くが利用可能な建築・設備のユニバーサルデザインの必要性に迫られる。車椅子利用者をはじめ障害者にとってはトイレ、通路などのバリアフリーの対応は必要不可欠だろう。

新設か、補修か、13年後供用開始へ

市も利用者の多い課を1階に設置しているなど配慮している。車椅子利用者は本館に設置されたエレベーターから西館2階まで行くことができる。トイレは西館1階にある。ただ議場傍聴席は単独でたどり着くことは不可能で、1階から3階まで階段を職員が介助しなければならないのが現状だ。

基本構想は市議会の承認を経た上で来年度から2カ年かけて策定する予定。構想に合わせて市民の意見を反映させるとしている。市は「現庁舎でも適正に維持管理すれば、この先20年程度は利用可能」という。その上で「新庁舎建設か、補修するか、費用対効果も考えなければならない」と話す。

市議会9月定例会の一般質問の中で市当局は新庁舎について「13年後の市制90周年での供用開始を目指したい」と答弁している。13年後は築70年を超える。